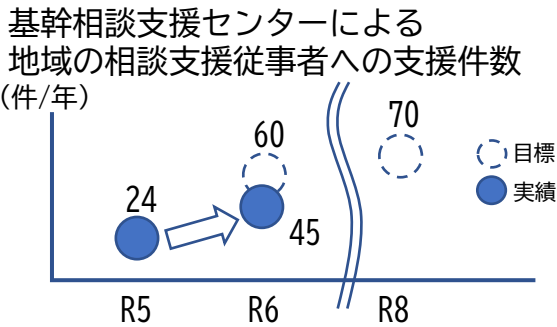


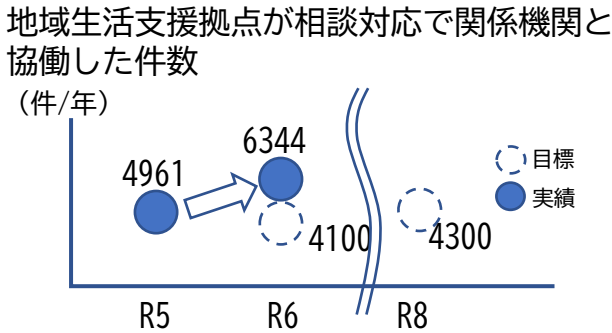
施策1 包括的相談支援体制の充実【重点】

取組1 相談支援・ケアマネジメント体制の充実

評価指標



取組2 多分野の協働による相談支援の充実



主な事業の評価

	事業名(担当課)	令和6年度 実績・課題
取組1	基幹相談支援センターの機能強化(障害福祉課)	(実績) 基幹相談支援センターを1か所から2か所に増設し、北部および中央地区を地域生活相談センターシャルが、東部および南部地区をサポートセンター沼南が包括することとし、地域の相談支援体制の強化を図った。
		(課題) 基幹相談支援センター設置数の目標を達成したことから、地域の相談支援事業所等への支援者支援を強化し、より一層の相談支援体制充実への取組が必要。
取組1	障害者相談支援・コーディネート事業(障害福祉課)	(実績) 各基幹センター及び拠点による相談件数：14,592件
		(課題) コロナ禍以後、相談件数、特にメンタルヘルスに関する相談が目立ち、併せて困難ケースの対応も増えており、委託相談支援員の負担増加が懸念される。
取組2	地域生活支援拠点における地区別研修(地域生活支援拠点の「地域の体制づくり」機能)(障害福祉課)	(実績) 地区別研修の開催状況 あおば：8回、たんぼぼ：6回 しょうなん：17回、ぶるーむの風：4回
		(課題) 複合的課題を抱えるご家庭の増加により、これまでよりも幅広い関係機関の連携が必要である。
取組2	「福祉の総合相談窓口」の設置(福祉政策課)	(実績) 新規相談者数：947名 継続相談者数：1,471名
		(課題) 新規相談者は例年並みの人数であるものの、1人が複数の課題を抱えていることが伺えるため、引き続き、相談者への伴走、早期解決や課題の悪化防止を目指した適切な窓口案内を行う。

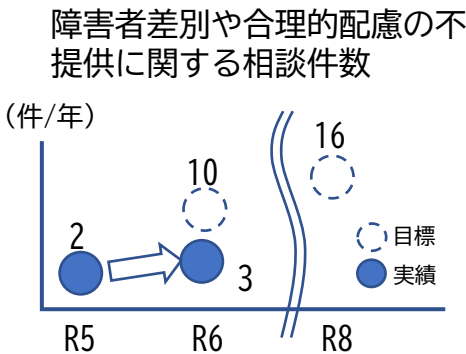
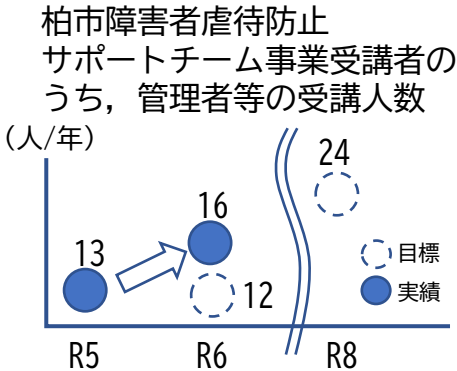
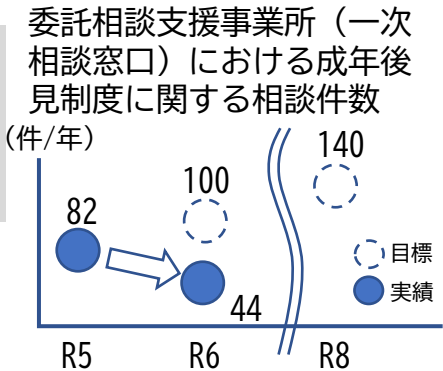
進捗評価

進捗評価			取組1の評価指標については、目標値には届かなかったものの、前年度比2倍に近い件数に上った。取組2については目標値を大幅に超え、多分野における協働の進捗が数字に表れる結果となった。さらなる相談支援体制の充実に向けて、地区別研修への参画促進や、相談員への支援の充実を図る。
良好	概ね良好	課題あり	

施策2 権利擁護体制の充実

- 取組1 成年後見制度の利用促進
- 取組2 虐待の防止と早期発見・迅速な対応
- 取組3 障害者差別の解消及び理解啓発

評価指標



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	成年後見一次相談窓口の周知（障害福祉課）	（実績） 成年後見一次相談の件数 あおば：26件 たんぽぽ：3件 しょうなん：4件 ぶるーむの風：11件
		（課題） 成年後見制度のより一層の制度理解を深めていくことが必要であるため、相談先の周知の強化を図る。
取組2	柏市障害者虐待防止サポートチーム事業（障害福祉課）	（実績） ・計6回の開催 ・11事業所（児童発達支援、放課後等デイサービス、就労施設等）の参加 ・延べ83名の出席
		（課題）令和6年度は目標値を超える実績となったが、引き続き管理者の受講件数増加を図るとともに、サービス管理責任者のさらなる参加を促進する。
取組3	広報誌やホームページ等による啓発・周知（障害福祉課）	（実績） 令和6年4月1日から障害者差別解消法における合理的配慮の提供が義務化されることをホームページ上で周知し、併せて法改正のリーフレットを掲載し、障害者差別に関する相談窓口の施行事業「つなぐ窓口」の案内を行った。また柏市障害者差別解消支援地域協議会を年2回開催し、その報告をホームページ上で行った。
		（課題） 差別の相談については、つなぐ窓口が開設された現在も年2～3件にとどまっており、より一層の周知が必要。

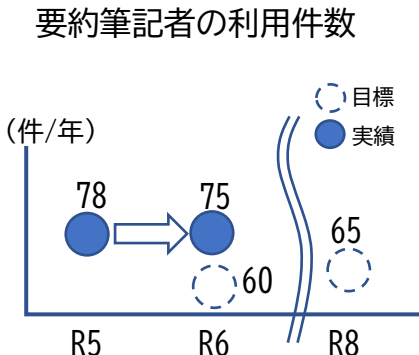
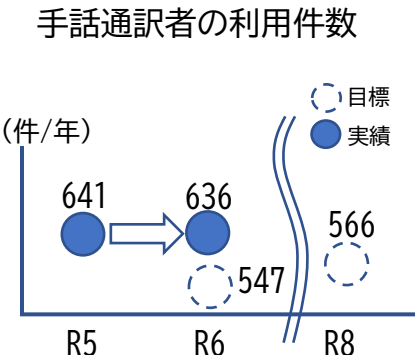
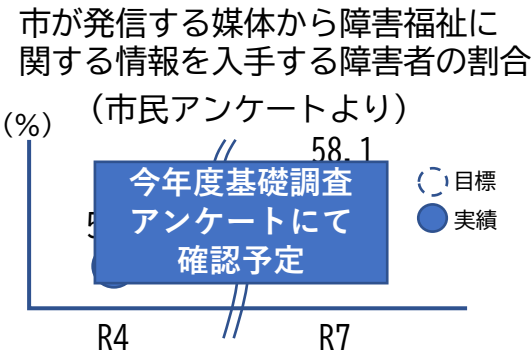
進捗評価

進捗評価			取組1及び3の評価指標については目標値に届かなかった。権利擁護に係る制度や相談窓口の認知度不足が考えられることから、より一層の周知と理解啓発に努める。 取組2は目標値を上回り、着実な増加が見られた。引き続き管理者の受講件数増加を図るとともに、サービス管理責任者のさらなる参加を促進する。
良好	概ね良好	課題あり	

施策3 情報アクセシビリティの充実

取組1 情報の提供と利活用の充実 取組2 意思疎通支援の充実

評価指標



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	広報誌・ホームページ・SNS等による多様な情報発信 （◎障害福祉課） （広報広聴課）	（実績） 障害福祉に関する情報を集約化した冊子「障害福祉のしおり」をはじめ、紙媒体を用いた情報発信が主流となっている。その他広報誌やホームページにおける情報発信を行っているが、SNSの活用には至っていない。
		（課題） 引き続きSNS等も含めた効果的な情報発信方法の検討が必要。
取組2	意思疎通支援者の派遣 （障害福祉課）	（実績） 手話通訳者・要約筆記者の派遣についてはコロナ禍の影響で一時的に件数が落ち込み、徐々に件数が回復してきているものの、以前の件数には戻っていない。
		（課題） 庁内外を問わず制度の認知度不足が考えられることから、周知方法の見直しが必要。

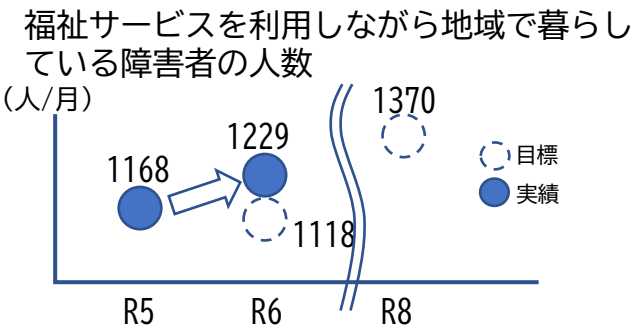
進捗評価

進捗評価			※取組1の実績値は今年度実施予定のアンケートで確認予定 取組2の評価指標についてはいずれもほぼ横ばいで推移しているが、コロナ禍以前の水準には回復していない。 庁内外を問わず制度の認知度不足が考えられることから、周知方法の見直しが必要。 引き続き、情報アクセシビリティの充実に向け、受け手にとって分かりやすい・利用しやすい情報発信について、様々な方法を模索する。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

施策1暮らしを支える基盤整備【重点】

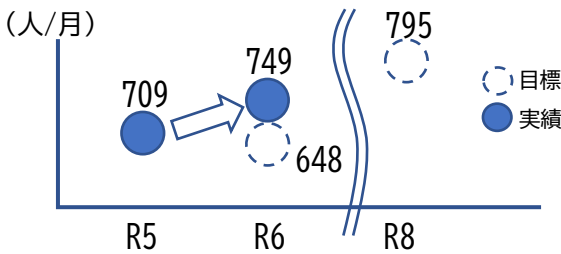
取組1 地域生活を支える場の充実

評価指標



取組2 高齢障害・重度障害等にも対応できる環境の整備

左記人数のうち、高齢障害者もしくは重度障害者の人数



主な事業の評価

	事業名 (担当課)	令和6年度 実績・課題
取組1	地域生活支援拠点の設置 (障害福祉課)	(実績) 令和6年度も地域生活支援拠点あおば、地域生活支援拠点たんぼぼ、地域生活支援拠点しょうなん、地域生活支援拠点ぶる一むの風の4つの拠点を設置・運営。
		(課題) 各拠点の設立から5年以上が経過し、次のステップとして、緊急対応時及び「体験の場」の好事例の集約に努める。
取組1	柏市地域生活支援拠点運営協議会の開催 (障害福祉課)	(実績) 柏市地域生活支援拠点運営協議会の開催 ・第1回令和6年6月24日 ・第2回令和7年1月24日
		(課題) 年2回の協議会を開催し、地域生活支援拠点機能の評価・検討、さらに各地域の課題共有を行っている。今後は課題解決に向け関係会議体との連携強化が必要である。
取組2	障害福祉サービス施設等改造等補助金 (障害福祉課)	(実績) 2ヶ所の新設及び2ヶ所の改造に対し補助を実施した。
		(課題) 重度障害者等を受け入れる事業所の拡大幅については、今後の課題である。
取組2	共同生活援助（グループホーム）の整備 (障害福祉課)	(実績) 公募をしたが実績なし。
		(課題) 重度障害者等を受け入れる共同生活援助の拡大幅については、今後の課題である。

進捗評価

進捗評価			令和5年度は取組1・2ともに目標値を上回る実績となった。地域生活支援拠点4箇所の設置から5年が経過し、支援ネットワークの深化が伺える。次のステップとして、各拠点の好事例の集約を図りたい。 一方、重度障害者等を受け入れる共同生活援助（グループホーム）の担い手となる事業所不足は依然として課題である。
良好	概ね良好	課題あり	

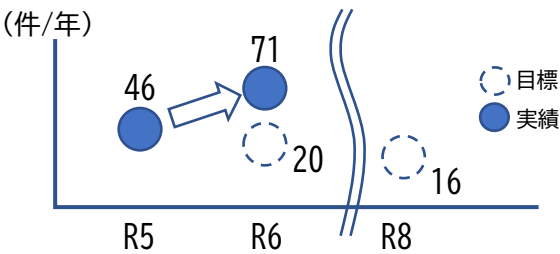
施策2 暮らしを支えるサービスの充実

取組1 在宅生活を支援するサービスの充実

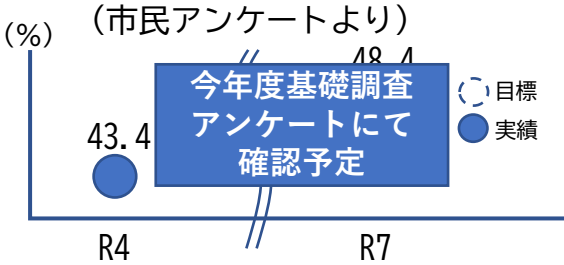
取組2 日中活動や医療等のサービスの充実

評価指標

市内事業所を対象とした実地指導における文書指摘の件数



サービスを利用する上で困ったことが特にない障害者の割合



主な事業の評価

	事業名 (担当課)	令和6年度 実績・課題
取組1	在宅福祉サービスの提供 (障害福祉課)	(実績) 在宅福祉サービスの利用状況 寝具乾燥消毒 4人 配食サービス 3人 理髪費用助成 4人 紙おむつ給付 80人
		(課題) 紙おむつ給付事業の利用者は増加傾向にあるものの、その他の事業については横ばい状況であり、より一層の周知が必要である。
取組2	自立支援医療 (精神通院・育成医療・更生医療) (障害福祉課)	(実績) 自立支援医療の受給状況(実人数) 精神通院：7,560人 育成医療：18人 更生医療：565人
		(課題) 受給者が増加傾向にある一方で、期限切れとなるケースも見受けられる。自立支援医療の安定的な受給体制確保の観点から、更新期間の周知方法の検討が今後の課題である。

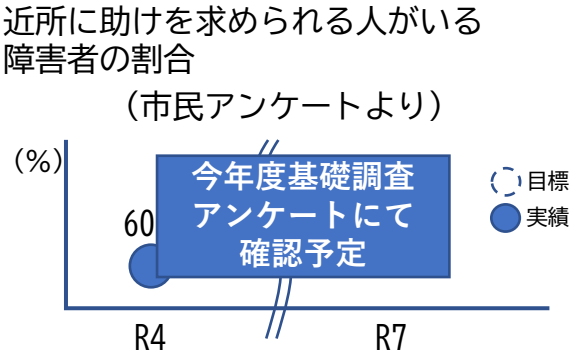
進捗評価

進捗評価			※取組2の実績値は今年度の実施予定のアンケートで確認予定 取組1の評価指標については、前年度比・目標値比ともに下回ってしまったが、要因として、3年に1度の制度改正に当たる年であり、指摘数が多くなるタイミングであったことが考えられる。 主な事業についてはいずれも周知方法に工夫を凝らす必要性を認識しており、今年度実施予定のアンケート結果も参考に、効果的な周知方法を検討する。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

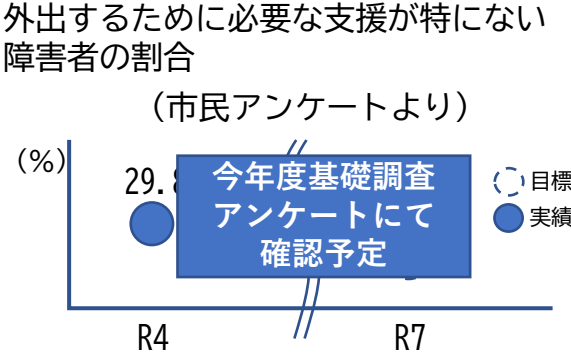
施策3 安心・安全な生活環境の整備

取組1 緊急時にも安心できる取組の強化

評価指標



取組2 安全に生活できる環境の整備



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	柏市防災福祉 K-Net (福祉政策課)	(実績) アンケート調査により支援体制の構築状況には改善が見られた。K-Netの説明用動画を市ホームページに公開し、制度の周知に努めている。また、一部登録者について登録情報を更新した。
		(課題) 既存の登録者の情報更新に着手するも、全登録者への情報更新には至っておらず、継続した取り組みが必要。事務量が増加・煩雑化したため、事業全体の見直しも課題である。
取組2	「福祉のまちづくり」 基準の適合指導 (◎建築指導課) (障害福祉課)	(実績) 適合証の発行件数は1件、指導書の通知件数は19件であった。
		(課題) 「福祉のまちづくり」基準が努力義務であり、適合証取得率の向上が難しいことが課題である。

進捗評価

進捗評価			※取組1・2ともに今年度実施予定のアンケートで実績値を確認予定 K-Netの説明用動画を市ホームページに公開するとともに、一部登録者の情報更新に着手するなど、支援体制の構築に進捗が見られた。 引き続き地域における共助の仕組み作りを進めるために、業務整理を通じた効率化に努める。 その他、参考指標とした「ヘルプマーク・ヘルプカード配布数」は昨今の認知度向上のためか、前年比約1.3倍と増加が見られた。
良好	概ね良好	課題あり	

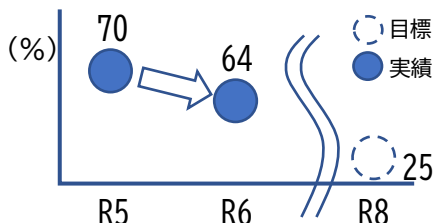
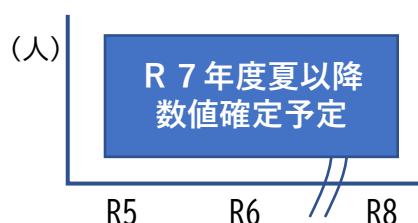
施策1 就労支援の充実【重点】

取組1 一般就労及び職場定着の促進

就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行した人数

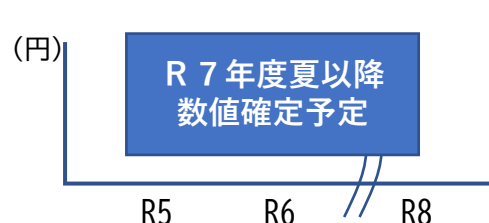
市内就労定着支援事業所における就労定着率が7割以上の事業所の割合

評価指標



取組2 工賃向上の取組強化

市内障害者就労施設等の平均工賃額



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	ジョブコーチ派遣事業（障害福祉課）	（実績）・利用者4人 ・本人及び企業支援回数延べ13回 特に企業への障害特性理解促進のための支援を重点的に行い、定着促進を図った。
		（課題）他支援者との役割分担を明確にすることや早期支援が課題である。
取組1	企業向け相談会の開催（障害福祉課）	（実績）・キックオフミーティング 1回開催 ・参加企業 12社 内容：障害者雇用についての講演及び採用企業からの講話
		（課題）市内企業への周知・啓発が課題である。
取組2	福祉施設による合同販売会の開催（障害福祉課）	（実績）・ラコルタ柏1階にて毎月販売会を開催した。 ・16事業所が参加。
		（課題）販売売り上げは上昇しているが、一般市民の方の購入が少なく、周知が課題である。
取組2	柏市障害者就労施設ハンドブックの作成（障害福祉課）	（実績）福祉的就労連絡会やはたらく部会にて意見交換を行い、各事業所の動画を作成、SNSで閲覧できるようになった。
		（課題）ハンドブックの評価について良い意見が聞かれる一方で、今後は現代のツールであるSNSの活用が課題である。

進捗評価

進捗評価



良好



概ね良好



課題あり

※取組1の一部及び取組2の評価指標の実績値は今年度夏以降に確定予定

取組1の評価指標である「市内就労定着支援事業所における就労定着率が7割以上の事業所の割合」はすでに令和8年度の目標値を上回っており、一定の成果が見られた。

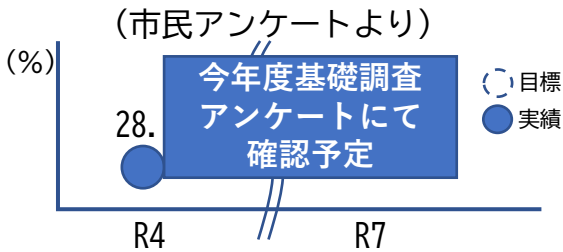
主な事業の進捗状況も概ね良好であるが、障害者雇用支援に係る役割分担や、新たなツールを用いた周知など、一部課題も残るため、現在の事業を引き続き推進していくとともに、今回の進捗確認で見た課題の解決に向けて検討を行う。

施策2 社会参加の促進【重点】

取組1 社会とつながる機会の充実

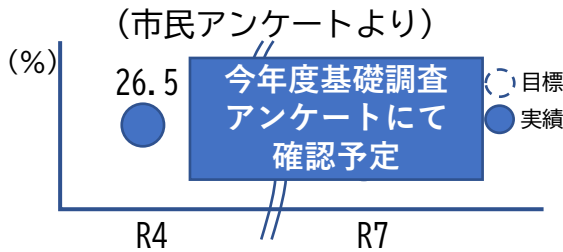
評価指標

スポーツや文化芸術，その他趣味のために外出する障害者の割合



取組2 交流・居場所づくりの促進

社会参加する，または社会参加を続けるために参加したい活動が特にならない障害者の割合



主な事業の評価

	事業名 (担当課)	令和6年度 実績・課題
取組1	障害者等社会参加・就労支援事業 (障害福祉課) ※令和7年度より事業名を「障害者等社会参加・訪問支援（アウトリーチ）事業」に変更	(実績) 利用者数は増加傾向。 ・利用者延べ人数 2,721人 ・関係機関との連携 1,073件 ・職業準備訓練 601件 ・アウトリーチ25件 ・職業体験開拓7件
		(課題) 自宅から出ることが困難なかたが多いことから，アウトリーチ型支援により一層注力する。
取組1	障害者等社会参加コーディネート事業 (障害福祉課)	(実績) 利用者延べ人数 1,208人 ・名前のない美術展，みんなの展示会の開催・会議等参加回数 42回 ・ワークショップ等の開催37回 ・障害者就労施設の販売会の開催12回
		(課題) 障害者・引きこもりの方・生活困難者等が地域に出て，他の方と交流し，人と社会との繋がりを持てる場を提供した。居心地が良い分，次の社会資源に繋がらないケースもあり，出口支援が課題である。
取組2	障害者活動センター運営事業 (障害福祉課)	(実績) 活動センターの稼働率は50%前後で推移しており，令和6年度もおおむね目標値に近い利用数となった。令和5年度から継続している登録団体ミーティングを通じて団体間の交流が進み，居場所づくりのための機運が高まっている。
		(課題) 稼働率が60%近くなる月もあるなど，一定の認知度は得られたと思われる一方，センターでのイベント数はまだ多くない。単なる貸し部屋ではなく，団体主導で障害者の居場所づくりが進むような仕掛けづくりが必要。
取組2	障害福祉関係団体への支援・ネットワーク形成 (障害福祉課)	(実績) 令和5年度から継続している障害者活動センター登録団体ミーティングを通じて団体間の交流が進み，ネットワーク形成が始まっている。また，関係団体やボランティアへの事業活動を支援するための補助金事業を引き続き実施した。
		(課題) 団体による補助金を活用した事業は安定的に事業が実施される反面，長年同様の取り組みを続けているものも多く，時代に応じた新たな活動を推進する仕掛けづくりも必要。

進捗評価

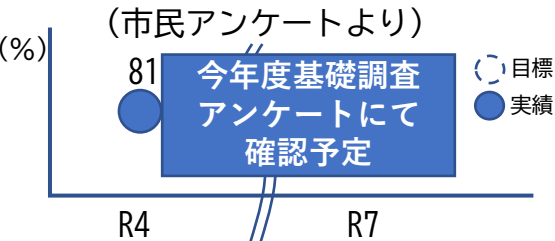
進捗評価			※取組1・2ともに今年度実施予定のアンケートで実績値を確認予定 いずれの主な事業も利用者数の増加が見られ，一定の事業成果があった。それぞれ次のステップとして，見えてきた課題に対して新たなアプローチを模索・実施する必要がある。 また，参考指標である「障害者等社会参加コーディネート事業利用者が参画して実施したイベント等の件数」等の実績値はいずれも高い値で推移していることから，事業の成果としては概ね良好であると考えられる。
良好	概ね良好	課題あり	

施策3 共生意識の醸成と
支え合いの地域づくり

取組1 共生意識の醸成

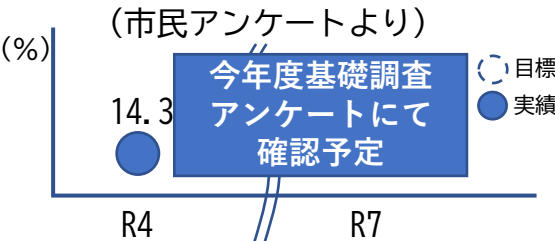
評価指標

障害者に対する偏見や差別が社会全体としてあると思うと答えた市民の割合



取組2 協働による福祉活動の促進

障害福祉や障害者に関心があり、何らかの形で行動に移している市民の割合



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	障害理解・啓発イベントの実施 （障害福祉課）	（実績） 令和6年12月の障害者週間に合わせ、障害理解・啓発イベントを実施。令和5年度に引き続き、障害者活動センターの登録団体やペジブルと協働したイベントなど、ラコルタ柏で活動・運営する団体と協働しての実施形態とした。加えて、ラコルタ柏3階オープンスペースを活用し、ラコルタ全館での開催とした。イベント数、参加者数は昨年度と比較して増加した。
		（課題） 業務効率化とあわせて、効果的に共生意識の醸成を図るイベントの計画・運営の仕方を検討していく必要がある。
取組2	障害者支援ボランティア養成講座の開催 （◎社会福祉協議会） （保健予防課） （障害福祉課）	（実績） 精神疾患の方へ寄り添う活動を行えるボランティアの養成および、同活動を行っているボランティア団体の会員増を目的とし、精神保健ボランティア養成講座を3回にわたり実施した。
		（課題） 同講座では延べ24名が受講し、精神疾患をお持ちの方へのアプローチを学んだ。ボランティア団体への入会を希望する受講者はおらず、課題が残った。

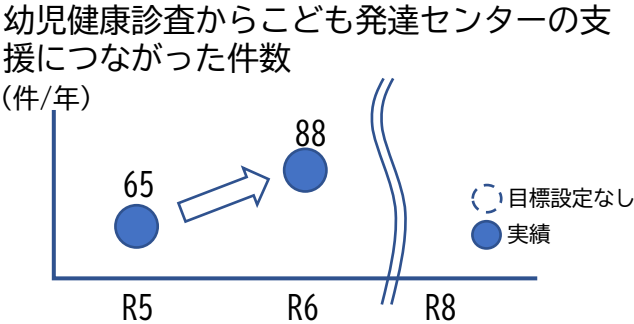
進捗評価

進捗評価			※取組1・2ともに今年度実施予定のアンケートで実績値を確認予定 取組1の主な事業については前年度実績と比較してイベント開催場所の拡大及び参加者数の増加があり、一定の事業成果があったと言える。 加えて、参考指標である「障害理解・啓発イベントの実施回数」の実績値は前年度から微増しており、事業の成果としては概ね良好であると考えられる。 施策全体を通して、各事業の土台は整いつつあることから、今回認識した課題の解決に向けて、事業のブラッシュアップを図る。
◎ 良好	○ 概ね良好	△ 課題あり	

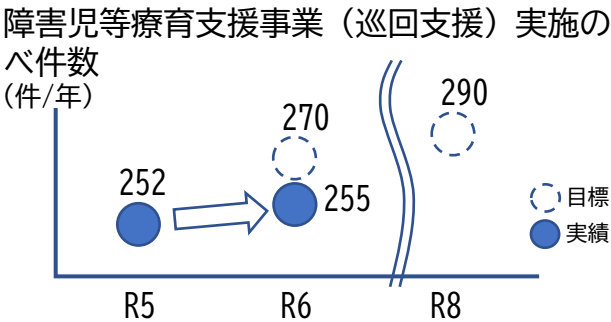
施策1 乳幼児期における支援の充実

取組1 障害の早期発見から健やかな成長のための療育支援の充実

評価指標



取組2 こども園・幼稚園・保育園等、地域で適切な支援が受けられる体制の強化



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	児童発達支援センターの設置 （◎こども発達センター キッズルーム） （障害福祉課）	（実績） （キッズルーム）官民で連携を図り、共同開催で事業所職員向けの研修会を実施した。また、保育園等からの相談を受け、施設を訪問し助言を行った。 （障害福祉課）本市において中核的な役割を果たす児童発達支援センター（中核機能強化加算対象）について、官民それぞれ1か所ずつ登録を行った。
		（課題） （キッズルーム）各関係機関と連携を図り、様々なニーズに対応できるように職員体制（人材確保）を整備することが必要。 （障害福祉課）中核機能強化加算で求められる要件のうち、令和6年度中は実施予定で差し支えないとされた要件について確認方法の検討が必要。
取組2	障害児等療育支援事業（巡回支援） （こども発達センター）	（実績） 幼稚園28件、保育園171件、こども園53件、児童センター3件の合計255件。 巡回利用希望園は増え続け巡回先アンケート結果から概ね評価されており、巡回支援専門員の助言が有用なものであった。また、助言を受けた園や担任が気になる子どもの理解や対応についてスキルアップしている。
		（課題） 園それぞれの教育や方針があり、助言の受け入れの難しさを感じることもある。スキルアップしている園がある一方でスキルを得る機会が少ない園もある。 保育の環境や職員の経験等の点で課題が感じられる園もあり、園ごとの特性や事情を踏まえた上での支援が求められる。

進捗評価

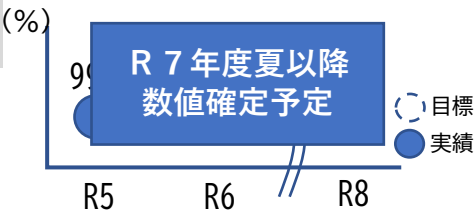
進捗評価			取組1の評価指標実績値は前年比約1.4倍であり、取組2の同実績値は目標値には届かなかったものの、前年度比で微増している。 主な事業の実績についても、研修や巡回支援の実施を通じて着実に各園等のスキルアップが図られており、概ね順調に進捗していると言える。
良好	概ね良好	課題あり	

施策2 学齢期における支援の充実

取組1 インクルーシブ教育システムの充実

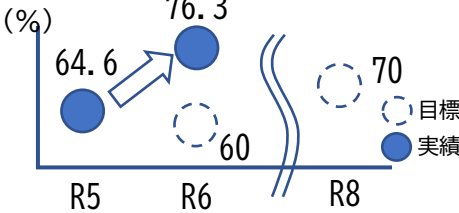
評価指標

特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受けている児童生徒における個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成率

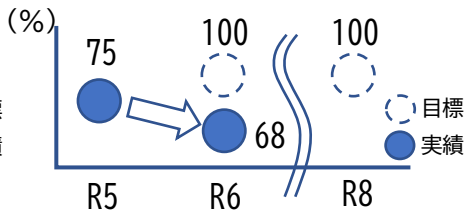


取組2 放課後や休日における居場所の充実

事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（事業担当者会議）



事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（こどもルーム）



主な事業の評価

	事業名（担当課）	令和6年度 実績・課題
取組1	校内支援体制（多様な学びの場）と個に応じた支援の充実（児童生徒課）	（実績） 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うため、特別支援学級及び通級指導教室における体制の充実を図った。また、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を実施し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援の提供ができる体制の整備を進めた。
		（課題） 特別支援学級が増加する中で、担任の専門性の向上や「自立活動」の実践の充実、適切な「交流及び共同学習」の在り方について、さらに理解・啓発を図る。また、校内支援体制のさらなる充実を目指す必要がある。
取組2	事業担当者会議の運営（柏市自立支援協議会こども部会） （◎障害福祉課） （こども発達センター） （キッズルーム） ※現在は「放課後等デイサービス連絡会」に名称変更	（実績） 放課後等デイサービス連絡会（旧称：事業担当者会議）の開催状況 ・令和6年度6月7日 62名参加 ・令和6年度10月22日 52名参加
		（課題） 事業所同士の横のつながりを強化するため、さらなる情報共有や研修の機会を創出する。

進捗評価

進捗評価			※取組1の評価指標実績値は今年度夏以降に確定する予定 取組2の評価指標実績値にはばらつきがあり、目標値に満たなかった「事業担当者会議及びこどもルーム指導員研修における研修等の受講割合（こどもルーム）」については改善の余地はあるが、主な事業については概ね順調に進捗した。次年度の課題として、特別支援学級担任の専門性の向上や校内支援体制のさらなる充実等を図ることや、放課後等デイサービス連絡会における事業所同士の横のつながりを強化するため、さらなる情報共有や研修の機会を創出する。
良好	概ね良好	課題あり	

施策3 切れ目のない支援体制の構築【重点】

- 取組1 本人や家族を対象とした
ライフステージで途切れない支援
- 取組2 支援機関の連携強化による
途切れない支援

評価指標

2026年度に開設予定の「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」において各種取組・事業を進める予定です。開設にあたって、障害福祉分野と子ども分野で連携・協力し、乳幼児期から学齢期以降まで、敷居が低く幅広い相談窓口とその後の一貫した切れ目のない支援を提供できる組織体制や運営等の検討を進めています。そのため、本施策における具体の指標設定については、新組織において検討することとしています。

主な事業の評価

事業名（担当課）		令和6年度 実績・課題
取組1	ライフサポートファイルの活用促進 （◎こども発達センター） （障害福祉課） （児童生徒課）	（実績）相談支援連絡会においてファイルの記入方法や活用方法について説明。併せてチラシを配布し、支援者への周知を行った。また、受給者証の新規・更新申請を行った未就学児を対象にチラシを配布(障害福祉課へ依頼)したほか、発達センター利用者についても積極的にファイルを配布し、利用をサポートすることで活用促進を図った。 （課題）サポートファイルの認知度は高いとは言えない状況である。引き続き周知及び普及啓発活動を行う中で、定着率や利用効果等の検証を行い、その在り方について検討していく。また、学齢児等、所持率の低い層における活用方法等についても併せて検討する必要がある。
	家庭児童相談 （（仮称）柏市子ども・若者総合支援センター）の開設 （こども相談センター） ※現在は「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」に変更	（実績）「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」においては、あらゆる相談に切れ目なく対応できるよう、こども相談センター内に「乳幼児担当」「学齢児担当」を設置した。また、児童福祉法に基づくこども家庭センターに位置づけ、児童虐待等の要保護・要支援児童等の早期発見早期支援に取り組める体制の構築を進めた。 （課題）こども家庭センター内の「家庭児童相談担当」「乳幼児担当」「学齢児担当」のほか、母子保健の主管課である地域保健課との相互の明確な役割分担と円滑なつながり等が重要である。開設に向けて、切れ目のない一体的な運営ができるよう、引き続き、業務を通じて連携の強化を図っていく。
取組2	柏市自立支援協議会 こども部会の運営支援（障害福祉課）	（実績）こども部会の運営状況 ・令和6年5月8日 35名参加 ・令和6年9月9日 29名参加 ・令和6年12月16日 28名参加 （課題）障害児施策の推進に向け、切れ目のない施策の推進が課題である。令和7年度よりこども部会の所管がこども発達センターに移管することとなるため、こども部及び福祉部のさらなる連携が必要である。
	（仮称）柏市子ども・若者総合支援センターの開設 （こども相談センター） ※現在は「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」に変更	（実績）「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」の開設に向けて、こども相談センター内に「乳幼児担当」「学齢児担当」を設置。子どもの年齢や相談内容に関わらず、総合的に対応できるよう一体的な体制を構築した。母子保健事業や学校等との連携を強化し、要支援児童等の早期発見支援に取り組んでいる。 （課題）令和7年度には、さらに「発達相談担当」を設置する予定である。子どもの年齢によらず発育発達に係る相談に対応できる体制を構築するとともに、既存の「乳幼児担当」「学齢児担当」との一体的な運用により、就学等を含め切れ目のない支援に取り組めるよう、引き続き、検討していく。
進捗評価		「（仮称）柏市子ども・若者相談センター」の令和8年度開設に向けて、着実に体制整備を進めている。 そのほか、引き続き切れ目ない支援を実現するためのツールである「ライフサポートファイル」の活用を促進するとともに、各種会議体において、子どもの支援に携わる関係機関の連携強化を図る。
 良好	 概ね良好	

進捗評価